[head](koten.htm)（岩倉紙芝居館古典館<http://hjueda.on.coocan.jp/koten/koten.htm>）

以下は、読書会に備え調べたこと、また、議論したことを、岩倉紙芝居館館主が独断で記載したものである。  
  
季氏第十六

１）季氏將伐顓臾冉有季路見於孔子曰季氏將有事於顓臾孔子曰求無乃爾是過與夫顓臾昔者先王以為東蒙主且在邦域之中矣是社稷之臣也何以伐為冉有曰夫子欲之吾二臣者皆不欲也孔子曰求周任有言曰陳力就列不能者止危而不持顛而不扶則將焉用彼相矣且爾言過矣虎兕出於柙龜玉毀於櫝中是誰之過與冉有曰今夫顓臾固而近於費今不取後世必為子孫憂孔子曰求君子疾夫舍曰欲之而必為之辭丘也聞有國有家者不患寡而患不均不患貧而患不安蓋均無貧和無寡安無傾夫如是故遠人不服則修文德以來之既來之則安之今由與求也相夫子遠人不服而不能來也邦分崩離析而不能守也而謀動干戈於邦内吾恐季孫之憂不在顓臾而在蕭牆之内也

jì shì jiāng fá zhuān yú rǎn yǒu jì lù xiàn yú kǒng zǐ yuē jì shì jiāng yǒu shì yú zhuān yú kǒng zǐ yuē qiú wú nǎi ěr shì guò yú fú zhuān yú xī zhě xiān wáng yǐ wéi dōng méng zhǔ qiě zài bāng yù zhī zhōng yǐ shì shè jì zhī chén yě hé yǐ fá wéi rǎn yǒu yuē fū zǐ yù zhī wú èr chén zhě jiē bú yù yě kǒng zǐ yuē qiú zhōu rèn yǒu yán yuē chén lì jiù liè bù néng zhě zhǐ wēi ér bù chí diān ér bù fú zé jiāng yān yòng bǐ xiàng yǐ qiě ěr yán guò yǐ hǔ sì chū yú xiá guī yù huǐ yú dú zhōng shì shuí zhī guò yú rǎn yǒu yuē jīn fú zhuān yú gù ér jìn yú bì jīn bù qǔ hòu shì bì wéi zǐ sūn yōu kǒng zǐ yuē qiú jūn zǐ jí fú shě yuē yù zhī ér bì wéi zhī cí qiū yě wén yǒu guó yǒu jiā zhě bú huàn guǎ ér huàn bù jūn bú huàn pín ér huàn bù ān gài jūn wú pín hé wú guǎ ān wú qīng fú rú shì gù yuǎn rén bù fú zé xiū wén dé yǐ lái zhī jì lái zhī zé ān zhī jīn yóu yǔ qiú yě xiàng fū zǐ yuǎn rén bù fú ér bù néng lái yě bāng fēn bēng lí xī ér bù néng shǒu yě ér móu dòng gān gē yú bāng nèi wú kǒng jì sūn zhī yōu bú zài zhuān yú ér zài xiāo qiáng zhī nèi yě  
季氏、將（まさ）に顓臾（せんゆ）を伐（う）たんとす。冉有、季路、孔子に見（まみ）へて曰く、季氏、將に顓臾に事有らんとす。孔子の曰はく、求、無乃（むしろ）爾是れ過てるか。夫れ顓臾は昔者（むかし）は先王以て東蒙（とうもう）の主（あるじ）と為し、且つ邦域（ほういき）の中に在り。是れ社稷（しゃしょく）の臣なり。何を以て伐つことを為ん。冉有が曰く、夫子これを欲す。吾二臣は皆、欲せざるなり。孔子の曰はく、求、周任（しゅうにん）言へること有りて曰く、力を陳（の）べて列に就（つ）く。能（あた）はざる者は止（や）む。危ふうして持（じ）せず、顛（くつがえ）って扶（たす）けざれば則ち將（は）た焉（いづく）んぞ彼の相（しょう）を用ゐん。且つ爾が言（げん）過（あやま）てり。虎兕（こじ）、柙（こう）より出でて龜玉（きぎょく）櫝（どく）の中に毀（こわ）る。是れ誰の過ちぞや。冉有が曰く、今、夫（か）の顓臾、固（かた）く費に近し。今、取らざれば後世必ず子孫の憂を為さん。孔子の曰はく、求、君子は夫（か）のこれを欲（ほっ）すと曰ふを舍（お）きて、而も必ず之が辭を為す者を疾（にく）む。丘や聞く、國を有（たも）ち家を有つ者は寡（すく）なきを患（うれ）へずして均（ひと）しからざるを患ふ。貧きを患へずして安からざるを患ふ。蓋（けだ）し、均しければ貧きこと無く、和（やは）らげば寡きこと無く、安ければ傾（かたむ）くこと無し。夫れ是の如くなるかな。故に、遠人服さざれば則ち文德を修む、以てこれを來たす。既にこれに來たせば則ちこれを安んず。今、由と求や、夫子を相けて遠人服せずして來たすこと能はざるなり。邦、分崩（ぶんほう）、離析（りせき）して守ること能はざるなり。而して邦内に干戈（かんか）を動かさんことを謀る。吾、恐るらくは、季孫の憂ひ、顓臾に在らずして蕭牆（しょうしょう）の内に在ることを。  
  
季氏が顓臾を伐とうとし、冉有と子路が孔子に会いに来て告げた。季氏が顓臾で戦を起こそうとしています。孔子は、求（冉有）に、そうじゃなくて、お前が間違っているのではないかと疑った。そもそも、顓臾の邑は、昔し、先王（周公）が東蒙の主とされ、邦域の中（魯國内）に在り、社稷の臣ではないか、どういうことでこれを伐つのか？冉有は、夫子（季康子）がこれを欲し、吾ら二臣は二人とも欲してはいない、と答へた。孔子は、求よ、周任がこう言っている、「力を発揮し、官職に就き、出来ねば辞す。」危きを支へず、顛へるを扶けないとするなら宰相を用ゐて何になろう。その上、お前の言ひ方は間違っている。虎や兕が柙から出、龜や玉が櫝の中で毀れるとすれば、これは誰の過ちとなるか？冉有の言い分はこうであった。今、あの顓臾は堅固で、費の近くにあります。今（魯の哀公の力が衰へ、顓臾への力が及ばなくなる前に哀公に代はり）、取っておかねば後世必ずや、子孫に憂ひとなります。どうやら二人は相談に来たのではなく、季康子に頼まれて、孔子の了解を求めに来ていたようである。すると、孔子の答へは、こうであった。求よ、君子（私）は、本心を言はずこうなるにきまっているなどという言ひ方を疾む。丘（私）はこう聞く。「國を有つ諸侯、家を有つ大夫は、寡を患へず均からざるを患ふ。貧を患へず安ぜざるを患ふ。」つまり、均しければ貧はなく、（政治が）和らげば寡はなく、安んずれば傾かず。政治とはそういふものである。故に、遠人（顓臾）が服さないならば、（自らの）文德を修めれば、(遠人)が（文德を慕って）來るものである。來たときにはこれを安んずればいい。今由と求よお前達は、季康子を相けて、遠人が服さず、やって來させることはできず、邦は分れ崩れ離れ析(わか)れ、守ることができない。しかも、邦内に干戈を動す（戦を行ふ）ことを謀っている。吾（私）が恐れるのは、季孫の憂ひが顓臾に在るのではなく、己の家の内に在ることである。  
つまり、季康子に頼まれたのなら頼まれたとはっきりすればいい。お前たちは同調したのであろう。季康子の政治が悪いから、民が離散し、顓臾も警戒している。そこを正すのが先決である。季氏の内部問題に振り回されてはいけない、となろう。この事件は左伝にはなく、実際はそれほど大きな問題とはならなかったようである。しかし、魯国内が分裂のきざしがあり、哀公の時代をもって三桓氏に分割され公室は細々と命脈を保つにすぎなくなる。  
■　季路は子路のこと、季氏に仕えていたので季路とも云ふ。■　有事とは事（戦）を起こすこと。■　顓臾（山東省費県）はfēng風姓で伝説の聖王、páoxī庖羲（fúxī伏羲）を始祖とする。魯が建国されたとき、顓臾は魯の東方の蒙山の祭主とされ、その地の社（土地の神）稷（穀物の神）を祭らせた魯候の臣である。魯候の臣を討つとはどういふつもりか。■　周任は、文王のころの周の大史、記録の官。■　陳力は力を発揮すること、就列は官職に列し、位に就くこと、不能者止は、それが出来くなるならば、その位を辞（や）める。■　季康子が顓臾を討とうとしており、我々二人は賛成していないので相談に来た。それに対する孔子の言葉は厳しいものがあった。■　用彼相の彼相とは前篇最後の瞽者を相（たす）く、の介護者のこと。孔子は、二人を季康子の政治を相（たす）ける立場にあるとみている。家老である季康子が、魯候の影響力が脆弱となりそうしなければ何らかの危惧があるとはいへ、魯候の直轄地を攻めるは、結局は季氏の危機を招く恐れがある。それを支えるために二人は季氏の宰を勤めているはずであろう。それが出来ねば辞めるつもりで諌めるのがお前たちの仕事ではないか！■　虎兕は虎と野生の水牛。■　柙は動物を捕らへて入れるおり。虎兕出於柙は虎兕が解き放たれる、暴君の暴走の比喩。■　龜玉の龜は占いに用いる龜の甲、玉は宝石、龜玉毀於櫝中は大切なものが櫝（ひつ）の中で壊れること、国内の秩序が乱れる比喩。そういうことになれば、誰の責任か？それを守るもの、それが、お前たち二人の役目ではないのか。■　疾夫舍曰欲之而必為之辭　これを欲しいといふことを舍いて、必ずやこれを為すといふ言ひ方を疾む；本心を言はず、必ずこうなりますからと他人事のようにいふのを嫌ふ。必為之辭は強引に言葉を飾る、弁解をするとされる。■　國を有つは諸侯、家を有つは大夫、家老。寡は民の少ないこと、均は民の貧富の差のないこと、和は税や労働や兵役が厳しくないこと、傾は傾国のこと。和無寡の寡は夫を亡くした妻でもある。■　分崩離析は孔安国の注によれば、「民に異心有るを分と言ひ、去るらんと欲するを崩と言ひ、会聚すべからざるを離析と言ふ」とある。■　蕭牆、皇侃によれば、天子は外屏、諸侯は内屏、大夫は簾(すだれ)、士は帷（とばり）を以て内外を分けた。季氏は大夫であるが屏を設けており、蕭牆の内と表現している。季氏の家内の問題を外に転嫁しているとみている。  
読書会：[2009年6月11日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年6月11日)

２）孔子曰天下有道則禮樂征伐自天子出天下無道則禮樂征伐自諸侯出自諸侯出蓋十世希不失矣自大夫出五世希不失矣陪臣執國命三世希不失矣天下有道則政不在大夫天下有道則庶人不議

kǒng zǐ yuē tiān xià yǒu dào zé lǐ yuè zhēng fá zì tiān zǐ chū tiān xià wú dào zé lǐ yuè zhēng fá zì zhū hóu chū zì zhū hóu chū gài shí shì xī bù shī yǐ zì dà fū chū wǔ shì xī bù shī yǐ péi chén zhí guó mìng sān shì xī bù shī yǐ tiān xià yǒu dào zé zhèng bú zài dà fū tiān xià yǒu dào zé shù rén bú yì

孔子の曰はく、天下道有れば則ち禮樂征伐は天子より出ず。天下道無ければ則ち禮樂征伐は諸侯より出ず。諸侯より出ずれば蓋（けだ）し十世にして失（う）せざること希（すく）なし。大夫より出ずれば五世にして失せざること希なし。陪臣が國命を執り三世にして失せざるは希なし。天下道れば則ち政は大夫に在らず。天下道有れば則ち庶人議（ぎ）せず。

孔子が申された。天下に道が有れば禮樂や征伐は天子から出るものである。天下に道が無ければ、禮樂や征伐は諸侯より出てくる。諸侯より出るようになれば、大概、十世たって失はれないということは希（まれ）である。大夫より出るようになれば、五世たって失はれないということは希である。陪臣が國命を執り行うとなれば、三世たって失はれないのは希である。天下に道有れば、政が大夫に在るといふことはない。天下に道有れば、庶人が（政治を）議すことはない。

■　天下有道とはこの場合、天命にもとづく王朝、夏、殷、周といふものを前提としている。天命による政治が行はれるのは、天を受け継ぐもの、天子以外にはありえない。■　天下に道が行はれない、天命に基づく政治が行はれなくなると、諸侯が覇を争ふことになる。天命を受け継ぐといふ厳粛な使命が失はれると、諸侯が如何に善政を行ったとしても、十代以上に亘ってそれを維持することは適はない。■　立派な大夫が善政を行ったとしても、その緊張を五代以上に亘って維持することは難しい。その下にいる陪臣となれば、三代に亘ることは難しい。大夫が政治を行っているといふこと自体がすでにおかしく、庶人がそれを嘆いて語り合うとなれば、世も末である。そして、新たに天命を受け継ぐ王が出現する。これは、孔子の言葉といふ形であるが、道をこのように限定するのは、戦国時代の論調くさい。子曰でなく孔子曰といふのも、硬苦しい。以下同様であろう。  
読書会：[2009年6月11日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年6月11日)

３）孔子曰祿之去公室五世矣政逮於大夫四世矣故夫三桓之子孫微矣

kǒng zǐ yuē lù zhī qù gōng shì wǔ shì yǐ zhèng dǎi yú dà fū sì shì yǐ gù fú sān huán zhī zǐ sūn wēi yǐ  
孔子の曰はく、祿の公室を去ること五世。政の大夫に逮（およ）ぶこと四世。故に夫の三桓の子孫微（び）なり。  
  
孔子が申された。爵祿を与える権威が魯の公室を去ること五世。政を行う実権が大夫に及んで四世。故に、夫の三桓（孟孫、叔孫、季孫）の子孫の権力も微（おと）ろへたり。

■　祿は鄭玄は爵祿とする。魯公が爵祿を与へる立場にあるが、集註は、「文公薨じ、公子遂の子赤を殺し、宣公を立てて、君其の政を失いてより、成･襄･昭･定を歴て、凡て五公なり。」とする。孔子が定公の時代に述べた言葉と考へられている。■　「逮ぶは及ぶなり。季武子始めて國政を專（ほしいまま）にしてより、悼･平･桓子を歴て、凡て四世なり。而して家臣陽虎が爲に執らる。」とする。季桓子の時、陽虎が政権を奪ふ。その時代に、孔子のこの言葉があり、この前条が後に編纂されたと考へられるようである。  
読書会：[2009年6月11日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年6月11日)

４）孔子曰益者三友損者三友友直友諒友多聞益矣友便辟友善柔友便佞損矣

kǒng zǐ yuē yì zhě sān yǒu sǔn zhě sān yǒu yǒu zhí yǒu liàng yǒu duō wén yì yǐ yǒu piān pì yǒu shàn róu yǒu piān nìng sǔn yǐ

孔子の曰はく、益者（えきしゃ）三友（さんゆう）、損者（そんしゃ）三友。直（なお）きを友とし、諒（りょう）を友とし、多聞（たぶん）を友とするは益なり。便辟（べんぺき）を友とし、善柔（ぜんじゅう）を友とし、便佞（べんねい）を友とするは、損なり。

孔子が申された。益者三友、損者三友。直っすぐを友とし、まこと信じることを友とし、多く聞くことを友とするは益がある。ひとをいいくるめることを友とし、善良であるがつかみどころがないことを友とし、言葉巧みにとりいることを友とするは損である。これは、人をいいくるめたり、言い逃れしたり、おだててとりいるようなことをしていると自分を見失う。まっすぐに見て、相手を信じ、よく他人の言うことにも耳を傾け、自分の人生を生きようではないかとなろう。

■　直は物事を真直ぐに見ること。■　諒はまこと、あきらか、たすけるの義。衆信、人のまことをを信じること、であるが[衛霊公篇37](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/eireiko.doc)）の「君子貞而不諒」、憲問篇18）の「匹夫匹婦之為諒」の用例と違い、どうもこの篇は趣が異なる。■　多聞は博識とされるが、独善に陥らず、よく聞くこと。■　便辟は馬融が、「巧みに人の忌むところを避けて媚を求む」朱子は「威儀を習うて直ならず」とする。[先進篇17](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/senshin.doc)）に「師也辟」師は子張、辟は王弼の説として「過差（失）を飾るなり」、集註では「容止（たちいふるまい）に習いて、誠實少なきを謂うなり。」とある。便は弁でよく話すこと、辟は仮借で意味が多い語、ここでは弁がたち、人をいいくるめるようなこと。■　善柔、朱子は、「媚說に工にして諒ならざるを謂う。」便佞を巧言とすれば善柔を令色とする。善良であるが芯がない。■　便佞、朱子は、「口語に習いて聞見の實無きを言う。」とする。祝鮀之佞（[雍也篇14](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/yoya.htm)）とされ、佞は元来交渉などにおいて弁のたつことであったが、論語以降は、人をおだて、人におもねる、媚びへつらうこと、とされるようになった。■　益は水が皿に溢れること、増すこと。損は圓（円形の鼎）の足を毀損することで減ること。益者とはだんだん豊かとなること、損者はジリ貧となること。

[読書会：2009年6月20日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年6月20日)

５）孔子曰益者三樂損者三樂樂節禮樂樂道人之善樂多賢友益矣樂驕樂樂佚遊樂宴樂損矣

kǒng zǐ yuē yì zhě sān yào sǔn zhě sān yào yào jié lǐ yuè yào dào rén zhī shàn yào duō xián yǒu yì yǐ yào jiāo lè yào yì yóu yào yàn lè sǔn yǐ

孔子の曰はく、益者三樂（らく）、損者三樂。禮樂を節するを樂（この）み、人の善を道（い）ふを樂み、賢友多きを樂むは益なり。驕樂（きょうらく）を樂み、佚遊（いつゆう）を樂み、宴樂（えんらく）を樂むは損なり。

孔子が申された。益者三樂、損者三樂。禮樂に適って心通じるを樂（この）み、人の善を述べるを樂み、賢友を多くするを樂むは益である。驕樂を樂み、佚遊を樂み、宴樂を樂むは損である。当時富と力を得た諸侯や大夫の驕樂、佚遊、宴樂、いかにも豊かな生活であるが、いづれジリ貧。禮樂、人の善、賢友を求むれば心豊かとなろうが損益観。

■　樂はyuèで禮樂、音樂の樂、lè で樂しむ、yàoで好む、願ふ。朱子は三樂sān yào、禮樂lǐ yuè、樂節yào jiéとする。■　節は、朱子は、「其の制度聲容の節を辨ずるを謂う。」、古注は、「動きて禮の節に得（かの）ふ。」とする。吉川先生は、「行動の節度を禮樂の節度に合致させる。」とし、貝塚先生は、「禮と音楽を節度をもって行う」とし、徂徠は、「禮樂はみな節あり、以て我が身を節するなり」とある。節は割符が原義、禮と樂には符合し通じるところがあり、人の心もそれに符合し通じるところがある。■　道はdàoで“みち”、“いふ”dăoで導くとなる。■　驕樂、は孔安國曰く、「尊貴を恃みて以て自恣す。」生まれ地位にうぬぼれること。■　佚遊は王粛曰く、「出入りすること節有らず。」朱子は、「佚遊すれば則ち惰慢す。」といふ。佚は夢中になり自らを失ふこと。■　宴樂は孔安國曰く、「沈荒淫瀆（ちんこういんとく）」、徂徠は酒色に湎（おぼ）るるを謂ふとする。

[読書会：2009年6月20日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年6月20日)

６）孔子曰侍於君子有三愆言未及之而言謂之躁言及之而不言謂之隱未見顏色而言謂之瞽

kǒng zǐ yuē shì yú jūn zǐ yǒu sān qiān yán wèi jí zhī ér yán wèi zhī zào yán jí zhī ér bù yán wèi zhī yǐn wèi jiàn yán sè ér yán wèi zhī gǔ

孔子の曰はく、君子に侍（はべ）るに三愆（けん）有り。言未だ及ばずして言ふ、これを躁（そう）と謂ふ。言及びて言はざる、これを隱（いん）と謂ふ。未だ顏色を見ずして言ふ、これを瞽（こ）と謂ふ。

孔子が申された。君子に侍して不都合なことが三つある。先回りして言ふ（人に言はせない）、これをがさつといふ。言ふべきときに言はない、これを隱、はぐらかすといふ。顏色も見ないで言ふ、これをめくらといふ。

■　愆、孔安國は「過（あやまち）」とする。愆は行路に水が溢れることで不都合なことが原義。過失であるが時期を誤まること。欠qiàn（不足）、歉qiàn（不満足）でもある。■　躁は、せわしくさわがしい、がさつなこと。謙qiān、虔qiánが必要。■　隱、説文に、「蔽（おほ）うなり」とする。徂徠は、孔子が衛の霊公に、「軍旅の事は、未だ之を学ばず。」としたような対応とみている。潜qiánではいけない。■　瞽は、視力のないもの、めくら。目があるのに見ない、いづれ罪を得て盲とされようものを。鉗qián口（口が出せない）ことになる。どうやら結局は鉛qiān刀、役にたちませんイメージがあろう。

[読書会：2009年6月20日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年6月27日)

７）孔子曰君子有三戒少之時血氣未定戒之在色及其壯也血氣方剛戒之在鬭及其老也血氣既衰戒之在得

kǒng zǐ yuē jūn zǐ yǒu sān jiè shào zhī shí xuè qì wèi ding jiè zhī zài sè jí qí zhuàng yě xuè qì fāng gāng jiè zhī zài dòu jí qí lǎo yě xuè qì jì shuāi jiè zhī zài dé

孔子の曰はく、君子に三戒有り。少（わか）き時血氣未だ定らず、これを戒むるに色に在り。其の壯に及びて血氣方（まさ）に剛（つよ）し、これを戒むるに鬭に在り。其の老に及びて血氣既に衰へ、これを戒むるに得に在り。

孔子が申された。君子には三つの戒がある。若い時には、血氣が不安定なためのめり込むことがある、色欲を戒めること。壯年になると血氣が方に盛んとなり血がのぼる。闘ひを戒めること。老いて血氣衰へてしまうとさもしくなる。利得を戒めること。

■　君子に三戒というは、徂徠は、君子、聖人においても、普通の人間と同じく戒めるべきことがある、とみる。しかし、少くして君子といふは無理があり、君子を目指すならば、その年齢において、それぞれ戒めねばならないことがあるとなろうか。色とは色欲、鬭は闘争、得は利得、名誉欲。■　皇侃は少は三十歳以前とする。壯は三十歳から四十歳　老は四十、五十歳以上。

[読書会：2009年6月20日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年6月27日)

８）孔子曰君子有三畏畏天命畏大人畏聖人之言小人不知天命而不畏也狎大人侮聖人之言

kǒng zǐ yuē jūn zǐ yǒu sān wèi wèi tiān mìng wèi dà rén wèi shèng rén zhī yán xiǎo rén bù zhī tiān mìng ér bú wèi yě xiá dà rén wǔ shèng rén zhī yán

孔子の曰はく、君子に三畏有り。天命を畏（おそ）れ、大人（うし）を畏れ、聖人の言を畏る。小人、天命を知らずして畏れざるなり。大人に狎（な）れ、聖人の言を侮（あなど）る。

孔子が申された。君子には敬虔に対応することが三つある。自らの使命を自覚すること、そのような自覚にもとづき政治を行う者、聖人の言葉には敬虔に対応する。小人は天命を知ることがないために、敬虔に対応することはない。大人の政治を弄び威を貶め、聖人の言葉の意味が分からず軽んじる。

■　畏は書経、呂刑に、「徳の畏をこれを威（おそ）る」とあり、神畏にたいするおそれをいふ（字統）。敬虔に対応すること。■　天命については使命、運命と二面的に考察されるが、民に安寧を齎すために天の命を受け政権につくことが原義。ここでは、自分に与えられた使命を自覚するからこそ抱く畏をいふ。朱子は、「畏は、嚴憚（げんたん：厳しく憚り畏れる）の意なり。天命は、天の賦する所の正理なり。其の畏る可きを知るときは、則ち其れ戒謹恐懼して、自ら已むこと能わざる者有りて、付畀（ふひ：天の賜物）の重き、以て失わざる可し。」とする。徂徠は、天、我に命じて天子と為り、諸侯と為り、大夫と為り、士と為らしむ、とした。■　大人とは、そういふ自覚をもって政治を行ふ為政者。文言（ぶんげん）、乾卦に曰く、「夫れ大人なる者は、天地と其の徳を合し、日月とその明を合し、四時と其の序を合し、鬼神と其の吉凶を合す。」易の考え方である。孟子、盡心篇に曰く、「大人なる者あり。己を正しくして、物正しき者なり。」わが国では、大人を“うし”と訓じ、主、貴人、王とみなした。■　聖人之言とは堯や舜、文王や周公などの言葉。徂徠は、大人は當世を以て言ふ、聖人は開国の君なり、とする。■　狎は左伝、昭公二十年に、「民狎れてこれを翫（もてあそ）ぶ」とあり、誓約の器を弄んで神威を軽んじること（字統）。■　侮の毎には、荘子、胘篋（きょきょう）に「天下毎々たり」とあるごとく、昏昧（こんまい）の義がある。偒（あなど）る、軽んじること。

[読書会：2009年7月4日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年７月４日)

９）孔子曰生而知之者上也學而知之者次也困而學之又其次也困而不學民斯為下矣

kǒng zǐ yuē shēng ér zhī zhī zhě shàng yě xué ér zhī zhī zhě cì yě kùn ér xué zhī yòu qí cì yě kùn ér bù xué mín sī wéi xià yǐ

孔子の曰はく、生れながらにして知る者は上なり。學びて知る者は次なり。困（くる）しみて學ぶは又其の次なり。困しみて學ばざる。民、斯れ下と為すなり。

孔子が申された。生れながらにして知る者は、天命を受けるような人であり、「上」。それを學んで知ろうとする者は、その「次」。それが何のことか分からずに、困しんでも學ぶのは、又、「その次」。分からないことは、困しんで學ぶことはしない。民はそういうことであるから｢下｣となる。

■　生而知之者上　[述而篇19](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/jutsji.htm)）に、「我は生れながらにこれを知る者に非ず。」とあり、孔子は自らはそうでないとする。伝説の聖王、堯や舜などを想定していよう。■　學而知之者　孔子はここから始めた。學を好む、楽しむの境地。■　困而學之　孔安國は「困とは通ぜざる所有るを謂ふ。」とする。吉川幸次郎先生は、「学問に対する興味を持たず、生活に困難を感じてはじめて学問におもむく」とする。徂徠は孟子を引き、「心に困しみ慮に衡（よこたは）る。」とする。力窮したときとみている。分からないが必死についてゆき、身につけようとする。一般人の学び方である。■　困而不學　分からないから学ばない。民斯為下は、民はそれを下とする、と解釈されるが、吉川先生は、文法的には特殊、とされる。民がそういう判定をするといふのは、意味が通じない。皇侃は「これは下愚の民なり」とする。[雍也篇19](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/yoya.htm)）に、「中人以上には以て上を語るべし、中人以下には以て上を語るべからず。」陽貨篇に、「上知と下愚とは移らず。」とあり、徂徠は、下は下愚、民の下たる所以とする。上智と下愚とを除く外、みな学ばざる可からざるを謂ふ、とする。

[読書会：2009年7月4日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年７月４日)

10）孔子曰君子有九思視思明聽思聰色思溫貌思恭言思忠事思敬疑思問忿思難見得思義

kǒng zǐ yuē jūn zǐ yǒu jiǔ sī shì sī míng tīng sī cōng sè sī wēn mào sī gōng yán sī zhōng shì sī jìng yí sī wèn fèn sī nàn jiàn dé sī yì

孔子の曰はく、君子に九思有り。視るに明（めい）を思ひ、聽くに聰（そう）を思ひ、色（しき）すに溫（おん）を思ひ、貌（ぼう）すに恭（きょう）を思ひ、言（い）ふに忠を思ひ、事（つこうまつ）るに敬（けい）を思ひ、疑（ぎ）すに問ふを思ひ、忿（ふん）すに難を思ひ、得を見るに義を思ふ。

孔子が申された。君子には思ふことが九つある。物事や人の行為を視るには、その由るところを明らかにし、聽くには、言はんとするところを察し、自らの顔つきは穏やかにし、容貌は恭（うやうや）しくし、言ふときには忠を心がけ、仕へるには相手を敬（うやま）ひ、わからない事があれば問ひ、忿（いか）るにまかせると難しいことになると注意し、損得を処するには義があるかを考える。

■　思の正字、恖は囟に従い、囟は頭脳の象形、思惟するところをいふ。深く考えること。頭で考え心で判断する。■　視るとは人の行動、物や事柄の挙動を視る。明は神明、明堂の明、神意の明かにされるところ、光の差し来るところ、そのよって来るところを明らかにする。■　聽くとは人の言葉を聽きくこと、聰とはその意図を察すること。■　色は顔色、溫は穏やかであること。詩、秦風小戎（しんぷうしょうじゅう）に、「言(わ)れ君子を念（おも）うに、温（おん）として其れ玉の如し」の温。■　貌は容貌、恭は相手を尊重し、うやうやしく対すること。相手の言動に穏やかに敬意をもって対処する。■　言は言葉を発すること、忠はまごころ、意見を求められれば、その心をもって述べる。■　事人に仕へるには敬しくすること。■　疑ひがあれば問ふとは、疑ひの心をもったまま信じるようなふりをしない。公冶長篇5)に、「敏にして学を好み、下問を恥じず」の問、でもあり、分かったふりをするようなことはしない、でもある。■　忿ることで事を難しくしないようにする。顔淵篇12)に、「一朝の忿りに其の身を忘れ、以て其の親に及ぼすは、惑いに非ずや」とある。怒りにより事をぶち壊し、事を難しくしてしまうことがないようにする。■　得を見るには義を思ふとは、憲問篇14)、「利を見ては義を思ふ」に同じ。これを得るかどうかの場面では、そこに義があるか、得る道理があるかを見定める。  
尚書、五事、洪範に、「一に貌と曰ひ、二に言と曰ひ、三に視と曰ひ、四に聽と曰ひ、五に思と曰ふ」貌には恭、言には従、視には明、聽には聰、思には睿（えい）が対応せしめられる。徂徠は、「視るには明なるゆゑんを思ふ。聽くにはその聰なるゆゑんを思ふ。色にはその溫なるゆゑんを思ふ。貌にはその恭なるゆゑんを思ふ。如何人が之を言ひて而る後忠を得んかを思ふ。如何人が之を為して而る後敬を得んと思ふ。如何人が之を問ひて而る後疑ひを析（わか）つことを得んと思ふ（他人の言動と見ており）。忿りには則ちその能く難を招くことを思ふ。得るを見ては則ちその或ひは義を害（そこな）はんことを思ふ。」とした。加地伸行先生は、形式と内容の一致を求めるもの、行為と観念の分離を避けるものと見られた。  
読書会：[2009年7月9日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年７月9日)

11）孔子曰見善如不及見不善如探湯吾見其人矣吾聞其語矣隱居以求其志行義以達其道吾聞其語矣未見其人也

kǒng zǐ yuē jiàn shàn rú bù jí jiàn bú shàn rú tàn tāng wú jiàn qí rén yǐ wú wén qí yǔ yǐ yǐn jū yǐ qiú qí zhì xíng yì yǐ dá qí dào wú wén qí yǔ yǐ wèi jiàn qí rén yě

孔子の曰はく、善を見るに及ばざるが如くす。不善を見るに湯を探るが如くす。吾其の人を見れり。吾其の語を聞けり。隱居し以て其の志を求め、義を行ひ以て其の道に達す。吾其の語を聞けり。未だ其の人を見ざる。

孔子が申された。善を行う人に会えば及ばぬと謙り、不善を行う人に会えば、湯を探るように慎重に相対する。そういう人に会ったことがあり、その言葉も聞いた。隱居したからには志を求め、義を行ひ、道を目指す。その言葉を聞いたが、未だそういう人に会ったことはない。

■　見善如不及は、善を見ると取り逃がさないように追求するという風に釈される。見善とは善を行う人に会うこと。其の場合己はその人に及ばぬと謙ることではないか。■　見不善如探湯とは不善を見ると、熱湯からさっと手を引くように急いで去るという風に釈される。湯の温度を確かめるごとく、真偽を慎重に見分けることとみた方がしっくりする。善の人でも不善の人でも慎重に対応された。探湯は、古代、“くがたち”とされ、真偽の判定法であり、熱湯に手をいれ、偽る者は“やけど”する、偽らぬ者はただれないとされた。恐らくは、偽る者は熱湯の前に引き出されるや不善を告白することになるのであろう。不善を行う人は故に、真実に熱湯のごとく脅へ目をそらす。如何に不利であろうと真実を直視し立ち向かふ。かつては、そういう素直で頑固なほど純朴な人が居り、会ったことがある。■　隱居、第一線から退いた以上、その初心に帰り志を求め、義を行ひ、道に至らんとす。そういう言葉は今も残っているが、そういう老人は居なくなった。冉有が季氏の政治におもねるのを厳しく批判し、陳成子が簡公を弑した時、孔子は、哀公にこれを討伐することを進言する（憲問篇22）如く、孔子の言動は年寄りの冷や水のごとき扱いを受けた。

読書会：[2009年7月9日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年７月9日)  
見善如不及の不及は一刻も早く間に合わせること。善いものを見たらすぐさまそれを取り入れようとする。見不善如探湯はその逆、悪にはさっと踵を返す、そういう人は見たことも聞いたこともあるが、後者は聞いたことがあるが見たことはない、後者に重点がある。

12）齊景公有馬千駟死之日民無德而稱焉伯夷叔齊餓於首陽之下民到于今稱之其斯之謂與

qí jǐng gōng yǒu mǎ qiān sì sǐ zhī rì mín wú dé ér chēng yān bó yí shū qí è yú shǒu yáng zhī xià mín dào yú jīn chēng zhī qí sī zhī wèi yú

齊の景公、馬千駟有り。死の日、民、德として稱すること無し。伯夷、叔齊、首陽の下に餓ふ。民、今に到りてこれを稱す。其れ斯れの謂か。

齊の景公は、馬千駟、四千頭を持つ富貴の君主であった。死の日、民が德ありとして稱へることは無かった。伯夷と叔齊は首陽の下（ふもと）で餓へた。民は今に到ってこれを稱（たた）へる。其れはこういふことだろう。

■　千駟は四頭だての戦車千台、馬四千頭。千乗の国であり、大国として尊敬を受けるべきであるが、民は徳なしとして称することは無かった。景公は崔抒が荘公を弑して擁立した君主、在位58年。景公に対しては孔子は、「君君、臣臣、父父、子子（[顔淵篇11](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/ganyen.doc)）」と進言したが、その意味を悟らず、陳氏に弑された。■　民無德而稱焉　皇侃は徳déを得déとする。禮記、樂記篇も、「徳は得なり」とする。徂徠は音をもって誤まる、「民徳（え）て称する無し。」と訓じた。「称（ほむ）ることを得るなし」、と加地伸行氏は訓じておられる。吉川幸次郎氏は「人民から称えられるべき道徳を何ももたなかった。」とされた。徳と得をひっかけ、徳もなく、得ることもないの両義を込めたものであろう。古代中国においては、得は彳（行きて）、貝（を）、寸（手にする）こと。古くは貝寸の字形。貴は中と貝、中は分けること貨幣を分け与える、富を分かつことが貴、得を分かつことは徳ある人であった。景公は持てる国力を民と分かつことができなかった。　■　[公冶長篇23](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/koyacho.htm)) 彼（か）の西山（せいざん）に登り、その薇（び）を采（と）りぬ。暴を以って暴に易（か）え、その非を知らず。神農（しんのう）・虞・夏も忽焉(にわか)にして没せり、我、安（いづく）にか適（ゆ）きて帰せん。于嗟（ああ）徂（ゆ）かん。命（めい）の衰えたるかな。（殷王、紂王の暴力に文王は徳を以て衆望を集めたが武王はその父の葬儀も行わぬ間に暴力を以て撃った、そのような命の衰えた周に私の居るところはない。）”かくて首陽山において餓え死にした。史記、列伝。■　其斯之謂與　[顔淵篇10](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/ganyen.doc)) 程子は、顔淵篇10の最後の「誠不以富亦祇以異」は、この句の冒頭にあるべきとしている。朱子は、これを詩の小雅、我行其野の一節とした。「我行其野、言采其葍、不思舊姻、求我新特。成不以富、亦秖以異」（[小雅](http://mokusai.web.infoseek.co.jp/shushigakukihonsho/shikyou/shikyou_2_shouga_main.html)）にひっかけて成chéngを誠chéngとしたもの。まことに、冨を以てせず、また、祇（ただ）異なるを以てす。意味は通るが、捨て置かれた妻の憂ひを込めた詩の趣とは合致しない。

読書会：[2009年7月16日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年７月16日)

13）陳亢問於伯魚曰子亦有異聞乎對曰未也嘗獨立鯉趨而過庭曰學詩乎對曰未也不學詩無以言鯉退而學詩他日又獨立鯉趨而過庭曰學禮乎對曰未也不學禮無以立鯉退而學禮聞斯二者陳亢退而喜曰問一得三聞詩聞禮又聞君子遠其子也

chén gāng wèn yú bó yú yuē zǐ yì yǒu yì wén hū duì yuē wèi yě cháng dú lì lǐ qū ér guò tíng yuē xué shī hū duì yuē wèi yě bù xué shī wú yǐ yán lǐ tuì ér xué shī tā rì yòu dú lì lǐ qū ér guò ting yuē xué lǐ hū duì yuē wèi yě bù xué lǐ wú yǐ lì lǐ tuì ér xué lǐ wén sī èr zhě chén gāng tuì ér xǐ yuē wèn yī dé sān wén shī wén lǐ yòu wén jūn zǐ zhī yuǎn qí zǐ yě

陳亢伯魚に問ひて曰く、子亦異聞有りや。對へて曰く、未だし。嘗て獨り立てり。鯉趨りて庭を過ぐ。曰はく、詩を學びたりや。對へて曰く、未だし。詩を學ばずば以て言ふこと無し。鯉退ひて詩を學ぶ。他日又獨り立てり。鯉趨りて庭を過ぐ。曰はく、禮を學びたりや。對へて曰く、未だし。禮を學ばずんば以て立つこと無し。鯉退ひて禮を學ぶ。斯の二つの者を聞けり。陳亢退ひて喜びて曰く、一を問ひて三を得たり。詩を聞き禮を聞き又君子の其の子を遠ることを聞く。

陳亢が伯魚に問ふて、「先生は、また、講義以外にあなたには何か話されることがありますか」というと、「いまだにそういうことはない。そういえば、昔、（父が）一人で立っておられ、鯉（私）が小走りに庭を過ぎると、詩を学んでいるかと云われ、まだです、と応へると、詩を学ばねば言うことが言えなくなるといわれ、私は庭からかえって詩を学んだのです。別の日に、又、一人で立っておられ、私が小走りで庭を過ぎると、禮を学んでいるかと云われ、まだです、と応へると、禮を学ばねば一人で世に出ることはできないと云われ、私は庭からもどって禮を学んだ。この二つのことは聞いたことがある」と応へがあった。陳亢はかえってから喜んでこう言った。「一つ問ふて三つを得た。詩のことを聞き、禮のことを聞き、又、君子は其の子を遠ざけるということを聞いた。」  
■　陳亢は陳子禽と同一視されるようである。孔子より40歳少（わか）く、[学而篇10](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/gakuji.htm))あるいは子張篇25)で子貢に質問しており、子貢の門弟とみられている。伯魚の伯は長男、孔子の長男の鯉（り）、字が伯魚。孔子六十九歳（BC481）の時に50歳で亡くなったとされるから孔子19歳のときの子となる。「君子は子を易（か）へて教ふ」の禮があり、孟子、離婁章句に、「公孫丑(こうそんちゅう)曰く、君子の子を教えざるは何ぞや、と。孟子曰く、勢(いきおい)行なわれざればなり。教うる者は必ず正を以てす。正を以てして行なわれざれば、之に継ぐに怒りを以てす。之に継ぐに怒りを以てすれば、則ち反って夷(そこな)う。夫子我に教うるに正を以てするも、夫子未だ正に出でざるなり、と。則ち是れ父子相(あい)夷うなり。父子相夷えば則ち悪(あ)し。古は子を易(か)えて之を教う。父子の間は善を責めず。善を責むれば則ち離る。離るれば則ち不詳これより大なるは莫(な)し。と』子は父の教える正を父が行っていないと思うと、それを継ぐことに怒りを覚え、そうなれば逆効果となり、相損ねあうことになりかねず、子を易（か）へて教え合うこととした、としている。門人の間でもそこのところが実際どうなのか興味があった。弟子は先生からは聞きづらく、孫弟子の陳亢はこれも弟子では出来かねるが大胆にも、21歳上の本人から直接聞こうと声をかけた。■　趨は年長者の前での禮で、小走りすること。■　未は、未だ～せず、は謙辭、年長者に対（こた）へる禮、勉強していない訳ではないが、達してはいない。鯉は禮に則った言動を行っていた。■　21歳年下の陳亢に鯉と本名で応えているのは違和感がある。孔子に対しているからそうなったのか？■　不學詩無以言、言うとは心にあることを言葉にするが、表現の仕方を詩から学ばないと的確に言うことができない。■　不學禮無以立、立は出世、世に出でひとかたの人間となること。それには禮に通じていなければならない。■　父として子の勉学の状況を気遣っておられた。詩を学んでいないのではないかと心配してのこと、まだ鯉が少（わか）い時のことであろう。陽貨篇10)に「子謂伯魚曰、女爲周南召南矣乎、人而不爲周南召南、其猶正牆面而立也與」ともあり、鯉がなかなか詩や禮を学ぼうとしないことに気をもんでおられたのであろう。■　聞詩聞禮又聞君子遠其子也、孔子が詩、禮を重視していることは誰に対しても同じであり、我が子といえども同じであった。

読書会：[2009年7月16日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年７月16日)

14）邦君之妻君稱之曰夫人夫人自稱小童曰邦人稱之曰君夫人稱諸異邦曰寡小君異邦人稱之亦曰君夫人

bāng jūn zhī qī jūn chēng zhī yuē fū rén fū rén zì chēng yuē xiǎo tóng bāng rén chēng zhī yuē jūn fū rén chēng zhū yì bāng rén chēng zhī yì yuē jūn fū rén

邦君の妻、君これを稱して夫人と曰ふ。夫人自稱して小童と曰ふ。邦人これを稱して君夫人と曰ふ。諸を異邦に稱して寡小君と曰ふ。異邦の人これを稱して亦君夫人と曰ふ。

邦君の妻、君がこれを夫人と称する。夫人は自らを小童と称するものだ。邦の人は君夫人と称し、諸を異邦に称しては寡小君といふ。異邦の人は亦これを称して君夫人といふべきものである。

■　この時代、政治の実権は、諸侯の手から賢大夫による宰相の手に移り、更には下克上により家臣が主君を弑して政権の座につき、本来そう呼ばれる立場にないものが、自分の妻を夫人とか君夫人とか称させる、あるいはその妻が自ら夫人と称するなど用語の乱れが生じ、本来はこう称すべきものと、孔子が正したということであろうか？

読書会：[2009年7月23日](http://hjueda.on.coocan.jp/koten/rongodokushokai5.html#2009年７月23日)

了  
2009.07.24